

論文番号 199

担当

国税庁 醸造研究所

題名(原題/訳)

清酒の健康と美容効果(その2)

執筆者

今安聰、川戸章嗣

掲載誌(番号又は発行年月日)

醸協 94(3) 201-208, 1999

キーワード

清酒 がん 心臓疾患 脳血管疾患 糖尿病 高血圧 健忘症 骨粗鬆症

要旨

清酒は百薬の長と呼ばれているが、清酒に存在する生理活性物質、作用について、著者が発見した以外のことを含め以下のとおり紹介した。

・がんについて

40歳～54歳の男性約12万サンプルの疫学調査より、毎日日本酒を飲む人は全く飲まない人に比べ、ガンに対して患う危険性が少ないこと、日本酒の濃縮物にガン細胞を萎縮・壊死させる効果があること、酒粕抽出物にNK活性があること、ガン細胞から分泌されるトキシホルモン-Lを抑制する効果があること、都道府県別肝硬変及び肝ガンの死亡率と酒の種類別消費量との関係は日本酒のみ負の相関があることについて紹介した。

・心臓疾患や脳血管疾患の予防

日本酒を適量飲酒することにより、血栓を溶かす働きを持つウロキナーゼという物質が増えること、酒粕にコレステロールを下げる働きがあることについて紹介した。

・糖尿病予防

酒粕抽出液や生酒に糖尿病を予防するインスリン様活性を持つ物質があること(脂肪の分解を抑制する)を見いだした。

・高血圧予防

高血圧の患者では、レニン・アンギオテンシン変換酵素の活性が強すぎるのであるが、この酵素を阻害するペプチドが日本酒中に3種類、酒粕中に6種類存在することを明らかにした。このうち、ジペプチド及びトリペプチドは生体内で有効に働く。その他にも血圧降下作用物質はいくつかある。

・その他

健忘症予防作用物質が酒粕や日本酒より、骨粗鬆症予防(骨タンパク分解酵素カテプシンLの阻害作用)作用物質が日本酒や麴より見いだされている。